プリンセス
小公女セーラ

第10話

『二つのプレゼント』

AR台本

企画
制作　日本アニメーション株式会社

プリンセス

小公女セーラ

第十話　『二つのプレゼント』

登場人物

セーラ……………島本須美
ミンチン……………中西妙子
アメリア……………梨羽由記子
ピーター……………坂本千夏
ベッキー……………鈴木三枝

アーメンガード……八百板万紀
バロー……藤本譲
小供服店主人……神山卓三
ラビニア……山田栄子
ジェシー……飯塚はるみ
ガートルード……佐々木るん
ロッティ……渡辺菜生子
モーリ……向殿あさみ

カメラ	画面		音声
1	廊下　cut尻で振鈴がなる		S・E（カランカラン）〜〜〜
2	階段で寝ているシーザー　耳をピクピクッとさせて、身体を起すと大きく伸びをする		
3	ミンチン、教室から出てくると右手に		
4	ミンチンFr・inして院長室の方へ　すれちがいにシーザー欠伸をしながら来る		
5	教室の黒板　インド半島が描かれてある　セーラ黒板の地図を消そうとする　走って来るロッティ　Fr・in		ロッティ「ね、ね、セーラのパパ、インドにいるんでしょ」 セーラ「ええ、そうよ」
6	ロッティ		ロッティ「ダイヤモンドのお山って、どこにあるの?」

7	セーラ微笑		セーラ　「まぁ、またダイヤモンドのお話?」
8	ロッティ、セーラの手をとってダダをこねるかんじで、アーメンガード、クリステルも近づいてくる		ロッティ「だって、聞きたいもん!」 アーメンガード「私たちも聞きたいわ」
9	セーラ、パチクリ		
10	アーメンガードとクリステル頷く		
11	チョッとハニカムように笑ってから		セーラ(off)「お父さまからのお手紙だと……私がいたボンベイから、ずっと奥地に入ったこのハイデラバードのそばにゴルコンタと云う古いお城があるそうなの」 アーメンガード「そのお城がダイヤなの?」 セーラ「違うのよ、お父さまのダイヤモンド鉱山はその近くらしいの」
12	黒板のボンベイからハイデラバードへと指さすセーラの指		
13			
14	セーラ、地図の前を移動して、振り返る		

15	ロッティ	ロッティ「ワーッ、じゃ、そのお山が全部ダイヤモンドなのね」
16	セーラ笑って	セーラ　「ロッティ……そんなことはないわ」
17	ラヴィニア立ち上る	ラヴィニア(off)「やめてよ！……小さい子相手に出まかせ云うのは」
18	セーラびっくりする	
19	ラヴィニアたちセーラの方へ近づく	ラヴィニア「ロッティ、ダイヤモンドで一杯の山なんてあったら、
20	ロッティ	(off)　みんな大金持ちになって変になっちゃうわ……」
21	ラヴィニア、嫌味ったらしくセーラを見る セーラおどろいて	「でも、セーラは大金持の娘になったつもりで変になってるんでしょうけどね」 セーラ　「まア……私はお父さまから来た手紙の事を話していただけよ」
22	ロッティ、ムキになって	ロッティ「そうよ、セーラのパパはダイヤのお山の持主よ、ラヴィニアなんてダイヤのこと知らないくせに」

23	ラヴィニア、ロッティを睨みつけ　セーラに		ラヴィニア「知ってるわよ！」 「ダイヤモンドぐらいうちのお母様だって持ってるわ。それも普通の人の一年分のお給料でやっと買えるほどのダイヤの指輪をいくつもね」
24	手をヒラヒラさせて		
25	ホーッとなるガードルート・ジェシー		
26	クルッと振り返って他のみんなに聞かせるように大きく手を上げて		ラヴィニア「でも、そのダイヤはみんなアフリカで採れたものだそうよ。インドでダイヤモンドが採れるだなんて話、聞いたこともないわ」
27	ラヴィニア、ツンとして		
28	顔、見合わせるアーメンガードとロッティ　アーメンガード顔上げてセーラを見る		
29	セーラ　フッと目を下ろすと、身体を返して		
30	黒板の地図を消し始めるセーラ		セーラ　「あなたと云い争うつもりはないけど

			お父さまは嘘はつかないわ。お手紙に有望な鉱山を手に入れたと書いてあるのだからインドでもダイヤモンドはとれる筈だわ」
31	セーラ振り返って、ラヴィニア 一番前の机によりかかっている		
32	ラヴィニア意地悪く		ラヴィニア「じゃ、どれくらいとれたというの?」
33	セーラ		セーラ「それは……まだとれたとは書いてなかったけど……」
34	ラヴィニア、冷たく笑って		ラヴィニア「じゃ、今の所あなたのお父さまはダイヤモンド王になったつもりってことね。あなたのプリンセスになったつもりと同じように……それだったら誰にでもなれるわ」
35	ラヴィニアおどけて、歩いて 半フレームFOLLOW PAN → FOLLOW STOP 振り返ってアーメンガードに		ラヴィニア「アーメンガード、あなたもプリンセスのつもりになったらどう?」
36	アーメンガードどぎまぎして		アーメンガード「え? 私? ……わ、私は駄目よ。だって太り過ぎてるもの……」
37	ラヴィニア、はじけるように笑う		ラヴィニア「ハハハ……」

38	ガードルート、ジェシーの二人も笑う		
39	小さくなっているアーメンガード・ラヴィニア　ガートルートたちを見る		ラヴィニア「聞いて？ アーメンガードには自分のことがよく判ってるわ。 (off) でも……」
40	ラヴィニアの足歩き出し		
41	セーラの前に立つラヴィニア		ラヴィニア「セーラにはそれがまるで判ってないのよ。第一プリンセスにしてはやせっぽちすぎよ」
42	セーラ		セーラ　「ラヴィニア……」
43	ラヴィニア、好戦的に		ラヴィニア「なによ！」
44	顔をむける		セーラ　「なにかになったつもりというのは心の事よ。別に、体つきやが持っているものとは関係ないわ。その人が誰かになったつもりで考えたり行いをすることなの」 ラヴィニア「流石、代表生徒のお答えね。まァ

	手前に		せいぜいダイヤモンド王の娘になったつもりで考えたり、行いをしたらいいわ。そうだわ、これからあなたの事をダイヤモンド・プリンセスと呼んで差し上げるわ」
45	机に手をついて、ひとりクククッと笑う		
46	ラヴィニア後姿から、サッと振り返って		
47	ラヴィニア、オーバーに手をひろげ、ふりかえる		ラヴィニア「いいでしょ、みんな……この学校にはプリンセス様がいらっしゃるのよ。きっと、この学校もさぞ有名になることだわ」
48	聞いている一同		
49	クルッと振り返りセーラに向き直り、身をかがめて（腰落とし）ワザと仰々しく茶化すように、仰々しく王宮スタイルのアイサツをして、教科書を持って左手に歩き出す		ラヴィニア「ね、ダイヤモンド・プリンセス……いずれ女王様におなり遊ばしても私たちのことをお忘れなさらぬようお願い申し上げますわ……では、失礼を……」
50	ガートルートとジェシー顔見合わせて、手前に		

51	セーラの前をセーラをチラと見やりながら通過する		
52	彼等を目で追うセーラ		
53	ラヴィニア、ドア開けて出ていく 続くガートルート、ジェシー		
54	擬然と見送るセーラ		
55	ラヴィニア、画面手前から入って、止る		ガートルート(off)「ね、待ってよ、ラヴィニア」
56	振り返るラヴィニアにガートルート・ジェシー追いつく		ラヴィニア「なによ」
57	ガートルート		ガートルート「(恐る恐る)あなた、セーラを憎んでるの？」
58	ラヴィニア、ツンと(イマイマし気に……)		ラヴィニア「憎んでなんかいないわ……ただ、あの子がダイヤモンド王の娘だなんて信じられないだけよ」
59	アメリアが来る		

60	アメリア		アメリア「まァまァ、みなさん、こんな所で内緒話？」
61	ジェシー、ハッとして ラヴィニア気にもせず		ラヴィニア「ええ、そうなんですアメリア先生」 ジェシー「ラヴィニア……」 ラヴィニア「ね、先生」
62	ラヴィニア、キザッポク左手に歩いてすそを持ち上げてみせる		ラヴィニア「私たち、セーラさんのことをダイヤモンド・プリンセスって呼ぶことにしたんです」 アメリア「まァ、ダイヤモンド・プリンセス…」
63	ラヴィニア		ラヴィニア「この学校の代表生徒として、とても相応しい呼び方だと思いますわ」
64	アメリア、単純に喜こんで		アメリア「まァ、なんて素敵な、ニックネームなんでしょう。きっと院長先生も大喜びされますわよ」
65	アメリア、手前に歩いて		
66	階段の方へ行くアメリア		
67	皮肉っぽく見送るラヴィニアたち		

68	弾むようにポンポンポンと階段上っていくアメリア		
69	ミンチンの寝室　帽子をかぶったミンチンがあれこれ帽子をかぶり直して見る（鏡の中の像）		
70	鏡を前に身体を廻して見るミンチン（この時既に外出着、着ている）→はっとなってすます		S・E　（トントントン）
71	パッとすますミンチン　アメリア入ってくる		アメリア「お姉様、お聞きになりまして？ 生徒たちがセーラさんのことをダイヤモンド・プリンセスと呼び始めてるんですって」
72	ツンとすまして帽子を直すミンチン		
73	アメリア、ひとりで興奮して、クルリと回ってみせる		アメリア「なんて素晴らしいんでしょう。この学校もとうとうプリンセスを生徒に持つ程になれたんですわ」

74	鏡をのぞき込んだミンチン、冷たく		ミンチン「アメリア！」
75	アメリア		アメリア「はっ？」
76	キッと向き直るミンチン　前へ アメリア身を縮めて		ミンチン「生徒たちはともかくあなたたまではしやぐとはどう云う事です」 アメリア「で、でもお姉さま……」 ミンチン「（低く）アメリア……私たち、姉妹が、ここまでやって来られた中に、忘れてはならない教訓があった筈です」
77	手前を左へ切れるミンチン		アメリア「えッ？……」 ミンチン「物事は慎重であるべきこと。あのダイヤモンド鉱山の話も充分に確かめて見る必要があります」
78	ベッドの向う側に行きベッドの上のハンドバックと手袋をとる		
79	ミンチン手袋をハメル		アメリア「あの……それで、どこへ」 ミンチン「弁護士のバローさんの事務所です」 アメリア「まァ……」 ミンチン「あの方はセーラ、クルー氏のロンドンに於ける代理人です。ダイヤモンド
80	アメリア近づく ミンチン、手袋をハメタ手を動かす		

81	ミンチン		鉱山の情報も御存知かも知れません」
82	アメリア		アメリア「え、ええ、お姉さま」
83	にっこりとして笑いながら、ミンチン、ドアへ歩く　見送るアメリア		ミンチン「では、あとを頼みましたよ」 S・E（ドアの開く音、しまる音）
84	アメリア見送る、ぼう然		
86	馬車にスマシテ乗っているミンチン　FOLLOW 浮き浮きと落ちつかない		
87	街の角を横切っていく馬車 ―SC―　Fr・out		
88	馬車、止っている　ミンチン、馭者の助けを借りて降り立つ		
89	馭者、帽子をちょっと上げて、左手に切れる ミンチン見上げる		ミンチン「ありがとう」

91	事務所、入ってくるバローとミンチン	
92	バロー、椅子をひいてミンチンを坐らせる	バロー「いやーミンチン先生あなたがわざわざ私の事務所にお見えになるとは思ってもみませんでしたよ」
93	バロー、台詞尻で奥へ	ミンチン「いや、セーラさんのお父様がダイヤモンド鉱山を手に入れられ……」 バロー「ほほう、矢張り、クルー氏がお嬢様に手紙を送りましたか」 ミンチン「ええ……」
94	バロー、事務机の上から書類をとる（本?）	バロー「その通りですよ、ミンチン先生」
95	ハッとするミンチン	
96	バロー、書類を手に手前に来る	バロー「あの子の父親はインドで有数と思われるダイヤモンド鉱山の持主になられたのです」
97	ミンチン、感情隠しきれずに息	ミンチン「世界有数……それは本当のことなん

	98	99	100	101	102	103	104
をのむ	バロー、ニコニコ	バロー、手前を向いて、二、三歩、歩く	ミンチン	手の書類を置いてページをひらく	まあ……と見入るミンチン	ダイヤの写真　白黒で O・L	真赤な布の上で回転するダイヤ光りがキラキラ
でございますか？」	バロー「勿論ですとも何故なら、この私も既にクルー氏の鉱山にかなりの投資をさせて貰ってるのですからな」	ミンチン「まァ……」 バロー「ミンチン先生……ひょっとすると、あなたもインドでダイヤモンドが採れると云う事に疑問をお持ちかも知れませんな」	ミンチン「え、ええ……」 バロー「私も投資する以上、いささかダイヤモンドの勉強をしましたよ。ごらん下さい」			バローoff「これは、インドのゴルコンダで産出したコイヌールと呼ばれる一〇六カラットもあるダイヤモンドで、	

105	見入っているミンチンの顔		off 今は、我がイギリスの王室の所有となっているものです」
106	青い布の上のダイヤB スポットに照らされている O・L（深い）		「これもインド産でフロレンチチンと呼ばれる一三九カラットのダイヤ、イタリヤのトスカナ殿下がお買い求めになったものです。 これこそ、インド産出中、最大の二五〇カラットもある、グレート・モーグルと呼ばれるダイヤモンドです」
107	ユックリと回る 面がピカピカッと光る		
108	膝のミンチンのニギリしめたコブシが震える		
109	緑の布の上のダイヤC 回転		
110	見入るミンチン、バローの手がめくる		バロー 「そのほかロシアのエカテリーナ二世に贈られたオルロフと呼ばれる一九四カラットのダイヤ」
111	ミンチン頬に手を当てる（T・U）		
112	描象的な絵 ダイヤを持つ手をのばし首をかきむしる人物像		バロー 「古来、持ち主に次々に不幸をもたらした事で知られる、ホープと名付けら

113	赤の布の上のダイヤ		れたダイヤ……」
114	ダイヤの絵が万華鏡で見た図のように回る		「いや歴史上、有名なダイヤモンドの大くはインドのゴルコンダで産出されておるのですよ」
	O・L		
115	その絵が白黒に変って		
116	汗をかいているミンチン ハンカチで汗をふくミンチン ハッとするミンチン		バロー(off)「先生! ミンチン先生……」
117	ホッと大きな息をつくと		バロー「どうかなさいましたか先生……」 ミンチン「い、いえ……」 ミンチン「そ、それ程のダイヤモンドの出る鉱山を、あの子の父親が……」 バロー「そうですともミンチン先生、私もあなたも、あの少女をきっかけに素晴らしい幸運を擱みかけておるのですぞ」
118	夢遊病者のように頷くミンチン		
119	パチパチともえるダンロ		

	前をバローの足が通る		
120	バロー、事務机に来て、ドカッと坐る（書類を置いて）葉巻きをくわえて		
121	たばこに火をつけると 立ち上るミンチン		バロー「ところでミンチン先生ー、間もなくあのお嬢さんの誕生日が来るそうですな」
122	バロー立ち上って歩いてくる		バロー「実はクルー氏に誕生日のおくりものを手配するよう依頼されておるのです。もちろん私からも思いっきり値のはるプレゼントを致すつもりですがね。ミンチンさん、パーティーは盛大にやっていただく必要がありますぞ」
123			
124	ミンチン		ミンチン「まァ……判りましたわ、バローさん、うちの学校でもセーラさんのために思い切ったパーティーを開くつもりですわ」
125	ミンチンひとりで大きく頷いて		ミンチン「ええ、そういたしますとも……」

126	馬車の馬、走る FOLLOW		
127	車輪回る　FOLLOW		
128	ニヤツイテイル・ミンチン先生 FOLLOW		
129	女学院前　馬車がとまる		
130	ミンチン玄関に		
131	足早やに駆け上り、中へ入るミンチン		
132	院長室に入ってくるミンチン・帽子を抜ぎながら手前に		
133	机に帽子を置き、ハンドバッグを置き――　ほくそ笑む		
134	アメリア・服のすそを持ち上げるようにしてとんでくる		

135	ドア開けて、急いで閉めて近寄るアメリア		アメリア「お姉さま……いかがでした？」 「ダイヤモンドのお話は本当だったのですか」
136	ちょっと顔をそらしすまし顔のミンチン　アメリア、ミンチンも思わず笑みが出てしまうが手を上げて制す		「本当に決ってます」 アメリア「わーッ、素晴らしい！」 ミンチン「落ちついて！」
137	アメリア		アメリア「で、でもお姉さま……」
138	ミンチン、椅子に坐り、アゴにコブシをつけると		
139	笑いがとまらない 顔を上げ 素早くF・O		「我が校の誇るべき、あのダイヤモンド・プリンセスはどこにいるのです」

＜前半・おわり＞

140	F・I 食堂、食事を終った一同 ベッキー片付け盆を手に立っている		(なんとなくザワついている)
141	ミンチン テーブルの間を歩いてくる↙ out 尻↗ を見る		ミンチン「皆さん……〜〜〜
142	ミンチン		ここで、皆さんに知らせることがあります」
143	ベッキー、盆を持って聞いている		(静かになる)
144	ミンチン、ふりかえり		ミンチン「間もなくセーラさんの誕生日が参ります」
145	セーラ、ハッとする		ミンチン off「そこで、皆さんと一緒に、ダイヤモンド・プリンセスのために盛大な誕生パーティーを開くことにしました」
146	ラヴィニア、ムッ		
147	アーメンガード ワーッ!!		(生徒たちどよめき)
148	びっくりしているセーラ 隣の		

	ジェニファー　ニコニコと見る		
149	ミンチン、左右を見廻しつつ		ミンチン「皆さんもセーラさんのために誕生日の贈り物をする事を考えて下さい」 （ザワザワ）
150			
151	ミンチン　椅子の間を歩いてセーラの方に行く		
152	ミンチン　セーラのそばに立って		ミンチン「勿論、この私も院長としてセーラさんに心からの贈り物をするつもりです」
153	ベッキー		
154	驚いているセーラにミンチン、いつになく優しくニコニコと 立ち上る		ミンチン「セーラさん、その事であなたと相談があります。ちょっといらして下さい」 セーラ「は、はい先生」
155	ミンチン、セーラを従えて出ていく　続いてアメリアも		

156	クリステル、リンダ　ぺちゃくちゃとおしゃべりはじめる		
157	ラヴィニアとジェシー、冷ややかに顔見合わせる		
158	ロッティとスーザン、話し合っている　ベッキー、テーブルの皿を片付け始める		
159	黙々と片付け始めるベッキー		
160	ミンチン事務室のテーブルの花		
161	セーラ、かしこまって坐っている　その隣に坐るミンチン		
162	ミンチン、ニコニコと セーラ、びっくりして ミンチン、セーラの膝に置いた手に、手をのせて		ミンチン「セーラさん、〜 先生は、あなたに誕生日に着る素晴らしいお洋服をプレゼントする事にしましたよ」 セーラ「まあ、そんな……」 ミンチン「いいえ、遠慮することはないのです。

手をひいて

ところで、セーラさん、どこか
〜
有名な洋服屋さんを御存知？」

163 セーラとミンチン、振向く

164 アメリア、喜々として
シュン

165

セーラ「いえ、私、ロンドンでは、そんなお店は……」
アメリア(off)「知ってますわ、お姉様、
〜
私一度入ってみたい高級婦人洋服店が…」
ミンチン「アメリア、あなたに聞いているのではありませんセーラさんにです」

166 アメリア、うつむく

アメリア「は、はい……」

167 セーラ

セーラ「あの……お父さまと一度行ったお店がありますけど」

168 セーラ、立ち上る

ミンチン「成程、ではそこに致しましょう。セーラさん、さっそく馬車の用意を……」
セーラ「は、はい院長先生」

169 地下の作業場（洗い場の前の）

	ドア開いてペッキーが⑥話の自分のカゴを持って入ってくるカゴ置いてドアをしめて、またよいしょと持ち上げ
170	作業台の前の椅子の上にとんとのせられるカゴ　Fr・I
171	ペッキー、カゴを開けて中に畳んである布類などを探す、畳んだ布をとり出す
172	片手を布にのせてそっと押してみる
173	布を拡げて（色んな布を継いである）三角に折って背中にハオる　ショールなのだ
174	その手ざわりをたしかめるようにさわる　↑P・Uしてその顔左手がショールの端を掴んで頬に当てるとゆっくり目を閉じる

	T・U		
	O・L		
175	フカンドカ雪が舞っている ドアが開いて出てくる女の子 （ベッキー）		
176	見上げて　ブルッと震えて両手 で肩を覆う		off 「ベッキー」
177	母親らしき女性が出て来て、布 を手に　頭からかける		
178	ベッキー、見上げて		ベッキー「ありがとう、かあさん」
179	ニッコリ頷く母		
180	微笑むベッキー		
	O・L		
181	現実のベッキーに戻る　目を開 けて		
183	ハサミを手にショールを持ち上 げてチョッと間　ショールを見		

	つめて、ショールを切り始める		
184	ショール、切られていく		
185	ジャンプ　首をブルルンと振る		
186	馬車にミンチンのっている　セーラのってくる　と坐る		セーラ　「ピーター、前にお父様とエミリーを見つけたお店、憶えてるわね」
187	ピーター、セーラ見ている		ピーター「ええ、憶えてます」 セーラ off「じゃ、そこへお願いね」 ピーター「承知しました、お嬢様……」
188	ピーター、それっと手綱をさばく　動き出す馬車		
189	馬車、走っていく		
190	地下室から庭へ出てくるベッキー、裁縫箱とショールを切った布を持っている		

191	ベッキー、馬小屋の裏の右に腰おろす		
192	裁縫箱を脇の石の上に置いて針と糸を（がさごそ）		
193	針と糸をFr・Iさせて　針に糸を通す		
194	布を二枚重ねて針をさす		
195	縫うベッキー		
196	店内のウィンドウ越しに辻馬車が走っていく　左からピーターの馬車が来て止る　ピーター、振りかえる		
197	ミンチン降り立ち、ウィンドウを眺めながら戸口の前へ　後からセーラ		
198			ミンチン「そう、このお店ね、仲々結構、

	セーラ追いつく 歩き出す		さ、入りましょう」
199	飾りつけを直している主人 入ってくるミンチンとセーラ		
200	主人、振りかえって ハッと気付いて 前へ		主人「いらっしゃいませ…… いやあ、あんたは…… あの時、お父さまと来られた……」 セーラ「ええ、小父様」
201	ミンチン、店内を見廻すように していたのが二人のやりとりに びっくり		
202	ミンチン、パチクリ		
203			主人「ええと、なんて名前をつけたのでしたかな、そうそう、エミリー うちから行ったあの人形は元気ですかな」
204	ニコニコと		
205			セーラ「ええ、とても大事にしているわ、小父様」

206	主人、ニコニコと頷く	ミンチン「まア、あのエミリーさんは、このお店で、 ところで、そんな挨拶はあとにしましょう」
207	ツっと表情かえて	
208	セーラ、面くらう	セーラ「は、はい院長先生」
209	ミンチン歩いて	
210	途中で腕組するミンチン、立ち上る 主人、向き直り	ミンチン「御主人、今日はこの子の誕生プレゼントの服を買いに来たのです」 主人「ほう……それはそれは……」
211	クルリと向き直り、いかにも傲慢に命令する	ミンチン「このお嬢さんに合う上等の服をお見せなさい」
212	主人、ムッとして後ろを向くと	
213	陳列台の一つの洋服をさして	主人「では、こちらの服などはいかがでしょうかな」
214	ミンチン、目鏡を指でチョッとさわってチラと見ると　そっぽ	ミンチン「いいえ、求めたいのは、もっと立派

	を向いて首を振る		で高価に見える服です」
215	主人いやな顔　歩き出し		主　人「ほう……」
216	主人、ミンチンの前を		
217	セーラ、目線主人追う　何となくハラハラ		
218	主人、ショーケースの前で振りかえって　おもむろに歩き		主　人「では、こちらの服では……」
219	眺めてみて、フンという表情でジロリと主人を見る		ミンチン「あなた、この子はダイヤモンド王の一人娘なのですよ」
220	セーラ、困惑している		
221	ミンチン　歩き出す		ミンチン「学校でも、ダイヤモンド・プリンセスと呼ばれている程です」
222	ふんぞりかえるようにソファに坐るミンチン		ミンチン「それにふさわしい服はないのですか」

223	主人、ムッ	
224	主人、歩み寄り	主　人「失礼だが院長先生とか……お子さんの着る服と云うものは、着やすくて子供らしいのが一番です。高いものが欲しいと仰言るなら」
225	主人	主　人「それこそダイヤモンドでも縫いつけた方がましですぞ」
226	まア?!……	ミンチン「まア……」
227	怒って立ち上るミンチン　すっとそらすように主人　セーラの方へ歩く	
228	主人、セーラの肩に手をやりニコヤカに	主　人「服を着るのはこのお嬢さんです、お嬢さんが択ぶのが当然だと思いますな」
229	憤然とするミンチン　セーラに目線を変え、ぐっとこらえて	
230	セーラに近寄ってニコヤカに	ミンチン「では、セーラさん、あなたの好きな

			服をお択びなさい、それから、このあと靴屋さんに廻らねばなりませんからね」
231	セーラ、とまどいつつ		セーラ「は、はい院長先生……」
232	ベッキーが縫い物をしている 夕景		
233	ベッキー、針を使っている		モーリーoff「ベッキー…… 〜 ベッキー」
234	ハッと顔を上げるベッキー		
235	モーリー、洗い場から出て来て キョロキョロしながら台所へ		
236	ジェームス、かまどの鍋をかき まわしている　モーリー入って 来て部屋の中を見廻す		
237	ぷりぷりしながら出ていく（手		モーリー「全く。あの子ったらこの忙がしいの にどこへ行っちまったんだろうね……」

No.	画面	台詞
	前にFr・O）ジェームスかまどからテーブルに　ボールをとって	モーリー(off)「ベッキー
238	チラッとその手をとめて見やる舌打ち	ベッキー」 ジェームス「チェッ」
239	三階　ベッキー、上ってくるとセーラの部屋のドアの前へ　手には（両手で）大事そうに包みを持っている　後からシーザー上って来る	
240	シーザー、じろりと見る（一、二歩前進）	
241	暫しためらっているがノブに手をかけドアを開ける	
242	小さく開いた戸からすり抜けるようにと入るとそっとドアをしめる	

243	音を立てないように歩く		
244	忍び足のかんじ　FOLLOW		
245	エミリーの椅子に近寄ると手の包みを置くように手をのばす		
246	手をひいてエミリーの膝に小さなリボンのついた包みが置かれている		
247	ベッキー、チョンと椅子の腕を押すと小さく揺れるエミリーの椅子		
248	ニコッと笑うベッキー　一度目でハッと顔上げ、二度目で振り返る		モーリーoff「ベッキー……ベッキー」
249	慌てて出てくるベッキー　急ぎ足で階段の方へ		
250	階段上ってくるモーリー　手前		

	からFr・Iするベッキー		モーリー「まァ、こんなところでなにをしてたんだよ」
251	モーリー、ベッキーを見て		ベッキー「いえ、あの……」 モーリー「フン、さんざん探させて……大方、私に隠れて骨休めでもしてたんだろう」
252	ベッキー		ベッキー「いえ、そんな」
253	モーリー、階段おりる		モーリー「云い訳は沢山だよ、さァ早く、片附けるんだよ」
254	降りていくモーリー 続くベッキー シーザーFr・Iして T・U		ベッキー「は、はい、ただいま……」
255	見送るシーザー		
256	夕暮 かなり暗くなった街 long 所々窓の灯り		
257	奥の街灯に灯り点燈夫が手前のついてない街灯に来る		

258	点燈夫Fr・Iして街灯の一部のフタを開け ボタンを上げる		
259	松明の棒を上げて		
260	ついたガス灯 松明の棒Fr・out ボーッと明るい		
261	ガス灯のともる風景 カスンダ中に灯がほの明るい美しいBGを——、馬車の音きこえて来てピーターの馬車が角を曲って手前に来る		
262	馬車のFOLLOW		
263	ミンチンとセーラのFOLLOW BG、に街灯の灯り通過して——		
265	明るいランプの灯り		S・E（ドアの音がして）
266	セーラの開けたドアからリボンをつけた洋服箱と靴箱をもった		

	ミンチン入って来てテーブルにのせる　セーラドアしめてくる ミンチンくるりと振り向いて	ミンチン「さてと、セーラさん、今日の買物は充分お気に召したでしょうね」
267	セーラ	セーラ「はい、ありがとうございます、院長先生」
268	ミンチン　ニッコリ頷く	ミンチン「それなら結構……では、このお洋服と靴は誕生日まで預って置きますからね」
269	ミンチン帽子をはずしつつ手前向きに身をそらす ミンチン、顔だけセーラを見て ミンチン、大きく頷き手前向く (微笑みを浮べて)	セーラ「はい……」 ミンチン「それから、この事は、お父様に手紙でお報らせしておくのですよ、よろしい?」 セーラ「はい、院長先生」
270	階段の壁のランプ　ポーッと明るく	
271	セーラの足元　疲れたように上	

	る　FOLLOW		
272	一段上って、再び歩き出して Fr・O		
273	セーラ、部屋に入ってくる		
274	ボナパルト		ボナパルト「セーラーセーラー」
275	セーラ、テーブルに近づいて 帽子をぬいでテーブルに置く		
276	ホッと吐息をつくセーラ　なに げなく左手を向くと　あらッ！		
277	エミリーの膝の上の紙包に T・U		
278	セーラ　パチクリ		
279	エミリーの椅子に近づいて紙包 みをとり上げる と向きを変えて		セーラ　「誰かしら……」

280	椅子に坐ってリボンをほどく		
281	リボン、ほどき終って紙包みをあけ始める　まだ中味見せない		
282	開けた　まァ～ッ		
283	可愛らしい針さしのＵＰ		
284	見るセーラ　こわれものでも持つようにそっと持ち上げる		
285	チョッと回してみる		
286	水の中に皿を入れて洗うベッキーの手		
287	ベッキー、　山のような皿を脇に洗いもの		
288	洗い終った皿は右手に、次の皿を左の方に置いて　桶の水流して		

289	水入れの方に来て水を汲む その時モーリーFr・I		
290	ベッキー　Fr・I		モーリー「ベッキー、お前がサボってたお蔭でなにからなにまで遅れちまったんだからね」
291	洗い場の桶に水を入れる 鍋をドンと置くモーリー 水汲場へ		ベッキー「申し訳けねえス」 モーリー「さァ、それが終ったらこっちも磨き上げるんだよ」 ベッキー「は、はいただいま」
292	モーリー、　ツンとして睨みつつ Fr・out		
293	セーラの部屋の時計十一時を鳴らす		
294	セーラ、椅子に坐っている　振りかえってみる　ユックリ顔戻す		

295	針さし		
296	暫し間 ハッ　小さく顔上げて 戸を見る		S・E　（重い靴の音　小さく〜〜 手前を大きく〜〜）
297	ベッキー、歩いていく　セーラ の部屋の前に来た時　ドア開く		
298	ベッキー、ハッとする　セーラ Fr・I セーラ、口に指当ててミンチン のドアの方を見る		セーラ　「ベッキー！」 ベッキー「お嬢さま……」 セーラ　「シーッ」
299	チョイ間あって　セーラ、ベッ キーの腕をとって部屋の中へ ドア閉まる		
300	セーラ、テーブルから針さしを とって　ベッキーに向き直る		セーラ　「ベッキー、これあなただったんでし よ」 ベッキー「は、はいお嬢様」

301			セーラ「矢っぱりそうだったのね、私、すぐあなただと判ったわ、ありがとう」
302	照れくさそうに俯向くベッキー		ベッキー「そんな……お嬢さまの誕生祝いにと思って……」
303	ベッキー　顔上げて セーラ、針さしを上に		ベッキー「お気に召したでしょうか」 セーラ「勿論よベッキー……これ、あなたが作って下さったのね」
304	ベッキー、嬉しそうに頷く		ベッキー「だども恥かしいッす……私の肩掛け切って作ったスから」
305	セーラびっくり		セーラ「えッ、肩かけを切って……」
306	チョッとはずして		ベッキー「なに、心配ないス……大分暖かくなって来ましたし、切ったところは、内側に隠せば見えませんから」
307	カメラT・U 止って間　ヒトミブラシ		セーラ「ベッキー……」
308	ハニカムように顔を上げた笑顔		
309	胸ににぎりしめた針さし		

	PAN・UPしてセーラ		セーラ「ありがとう……（この間長く）ありがとう、ベッキー」
310	抱きつくセーラ　ベッキー慌て、		ベッキー「お、お嬢さま……」
311			
312			
313	セーラの頬を一滴の涙が流れて PAN　ベッキーの背中でニギラレた針さし		セーラⓂ「私はベッキーの気持が嬉しくて泣いてしまいました。そうですミンチン先生が買って下さった洋服や靴もうれしかったけど、私には、ベッキーのこのプレゼントの方が何倍もうれしかったのです」
314	暖かく見えるセーラの部屋 その中で抱き合う二人 F・O		

〈おわり〉